

病害虫発生予察情報

令和4年5月31日

病害虫発生予察情報（飛騨地域） 6月予報

6月は梅雨時期となり、病気の発生が懸念されますので、健全な作物の生育を維持し、早期発見、早期防除にこころがけましょう。

【水 稲】箱施薬を実施していない場合は、葉いもち対策の粒剤を確実に実施しましょう。

【果 樹】もものせん孔細菌病は、近年増加傾向であるため、発生拡大に注意しましょう。

カメムシ類の発生は、現時点で多くないものの果樹園への飛来を確認しています。

【野菜類】各品目の播種時や定植時には、ネキリムシ対策を実施しましょう。

（今年は、過去3年間でフェロモントラップの誘殺数が一番多い状況。図1参照）

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（6月）

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水	葉いもち	やや多				<初発生>			葉いもち 補植苗は発生源になるので早めに除去する。 BLASTAMIによる感染好適条件を確認する。
	イネミズゾウムシ	並	<幼虫孵化最盛期>						
	イネドロオウムシ	並	<幼虫発生期>						
稲	防除適期		▲←	▲← 葉いもち(初発前) →▲ イネミズゾウムシ(多発時) イネドロオウムシ(多発時)				→▲	イネミズゾウムシ 箱施薬を実施していないほ場や、多発時には 本田防除を実施する(防除の目安: 夕方の 100株当たり寄生数が30頭以上)。 イネドロオウムシ 箱施薬を実施していないほ場や、多発時には 本田散布を実施する。
	シンクイムシ類	並				<第1世代成虫最盛期>			シンクイムシ類 新梢伸長期の防除を重点的に実施する。 カメムシ類 飛来状況に注意し、適期防除に努める。 せん孔細菌病 罹病部位は見つけたら切除する。また、 多発するほ場では早く袋かけを行う。
果	カメムシ類	並	<越冬世代成虫>						
	せん孔細菌病(もも)	並	<感染拡大期>						
樹	防除適期		▲←	▲シンクイムシ類 カメムシ類(果樹園飛来時)				→▲	せん孔細菌病
	べと病	並	<発病適期>						べと病
ホウレンソウ	ケナガコナダニ	並	<幼虫、成虫加害時期>						湿度が高く発病に好適な時期は換気を行い、 発病前に予防防除に努める。 ホウレンソウケナガコナダニ 餌となる有機物の多用は避ける。 タネバエ 防虫ネットで被覆し、飛来を防ぐ。
	タネバエ	やや多	<幼虫加害時期>						
	防除適期		▲←	べと病(予防的防除) ケナガコナダニ(2~4葉期)				→▲	
トマト	灰色かび病	やや多	<初発生>						灰色かび病 花がらや葉先枯れは早期に除去する。 葉かび病、すすかび病 発病前から予防的な防除を行う。
	葉かび、すすかび病	並	<初発生>						
野菜全般	防除適期		▲←	灰色かび病(予防的防除) 葉かび、すすかび病(予防的防除)				→▲	
	コナガ	やや少	<幼虫加害時期>						コナガ
野菜全般	アブラムシ類	並	<有翅成虫最盛期>						薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統 薬剤の連用は避ける。 アブラムシ類 定植時に粒剤施用する。高温乾燥が続くと多 発する。防虫ネット・シルバーマルチで飛来を 抑制する。 ネキリムシ類 被害が発生してからでは手遅れなので、定植 時に粒剤施用する。
	ネキリムシ類	やや多	<幼虫加害時期>						
	防除適期		▲←	コナガ(ローテーション防除) アブラムシ類(ローテーション防除) ネキリムシ類(定植時)				→▲	

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ ほか

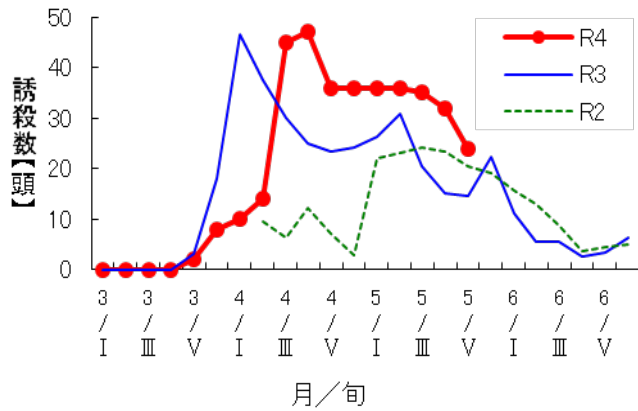


図1 フェロモントラップによるネキリムシ類（カブラヤガ）誘殺数の推移（高山市丹生川町）

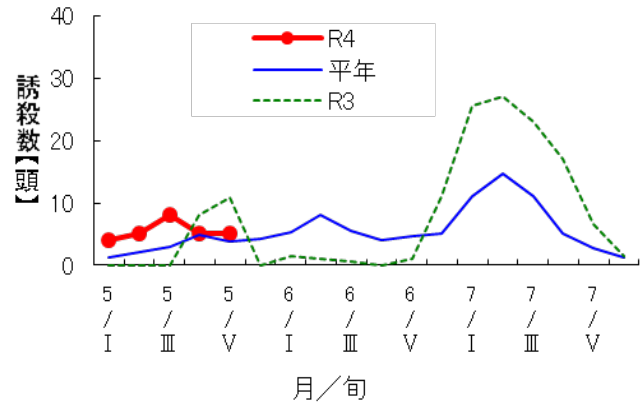


図2 誘引剤によるタネバエ誘殺数の推移（飛騨市古川町）

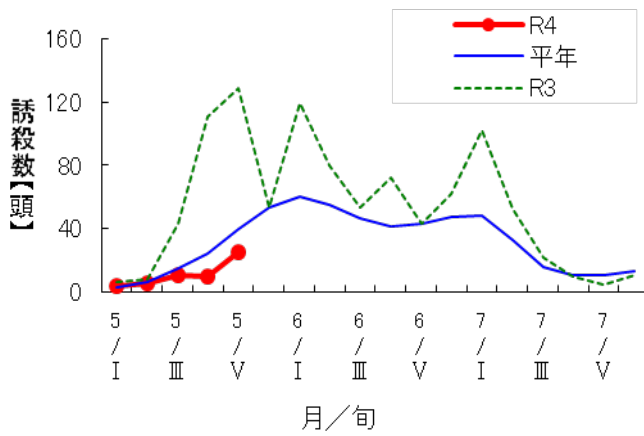


図3 黄色水盤によるアブラムシ誘殺数の推移（高山市下林町）

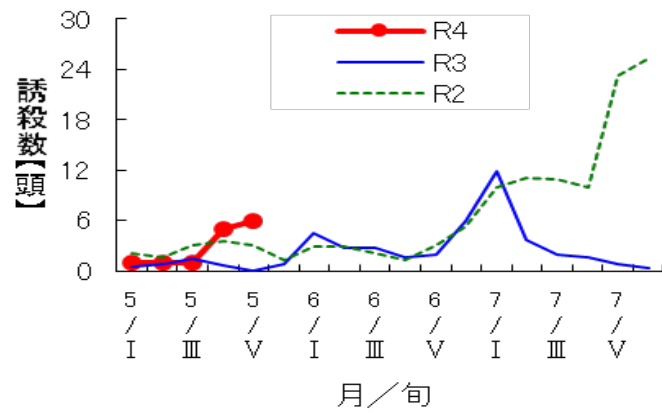


図4 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（飛騨市古川町）

10年ほど前に大発生したマイマイガですが、昨年、学校や運動場等夜間照明の多い場所に寄ってきて、多数の卵塊が確認されました。飛騨総合庁舎でも卵塊が確認され、現在は、樹木で幼虫が葉を食害し、幼虫の体長は4cm程度に成長しています。幼虫期間は約2か月で、老熟すると体長は約5～7cmとなり、7月上旬頃から成虫（蛾）が現れます。幼虫等に触るとかぶれなどを引き起こす場合があるので注意してください。

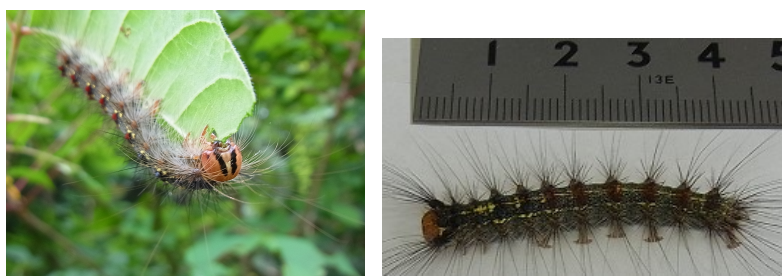


写真1 マイマイガの幼虫

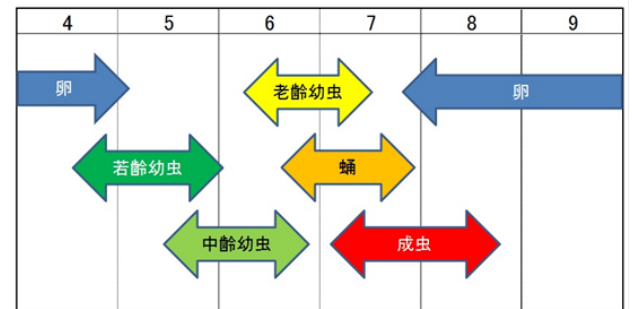


図1 マイマイガの時期別发育ステージ

東海地方1か月予報（名古屋地方气象台 5月26日発表）

向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は、平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

6～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。（トップページQRコード→）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468



トップページ



BLASTAM (いもち病情報)